

會 報

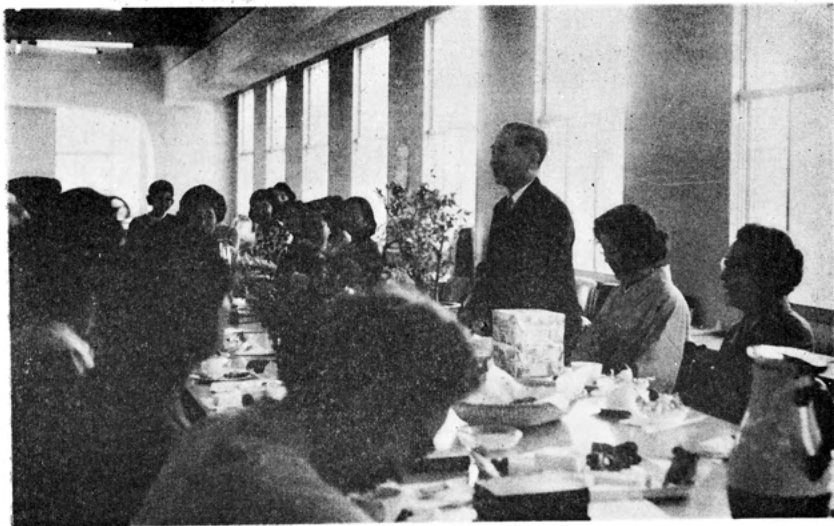
第 9 号

1969 年

東京女子大学
同 窓 会 数 専 会



中谷先生感謝会(44.4.19)



感謝会のごあいさつ



昭和二十二年頃、うしろの校舎がまだ黒い
(戦争中空襲から守るための迷彩)

最近の数学教室



○印新任者

高村多賀子 先生	根岸愛子 先生	近藤助葉子 先生	松井直手子 先生	黒星登一 先生	松原稔 先生
山本幸一 先生	小河原正巳 先生	雨宮一 先生	静間良次 先生		



ブレイダー、ソフトボール大会 (22. 6.)



先生のごあいさつ

平野先生御授章祝賀会

(44・9・6)



会報目次

口	絵	
目	次	
中谷先生感謝会	1
中谷先生御退職に際しての 記念品について 山本敦子	2
ごあいさつ 中谷太郎	2
中谷先生の感謝会に列席して 小林薫一	4
中谷先生を送るに当って 中村進	5
中谷先生のこと 関桜	7
	川喜田弘子	8
	矢部桂子	9
	安部毬子	9
	鯨井洋子	11
楽しかったこと 青木隆子	11
でんわのうた	12
「湖は呼んでいる」	13
平野先生お祝い会	14
平野先生御授章記念 御祝品について 山本敦子	16

中谷先生感謝会

と き 昭和44年4月19日(土) 午後2時半～4時半

と ころ 東京女子大学新キャフテリア

昭和11年以来長い間母校のためにお返し下さいました中谷先生は、この3月を以て停年退職されました。私共卒業生一同は研究室と共催にて、ささやかながら、先生に感謝の会を開きました。

この日、母校のキャンパスは満開の八重桜と、みずみずしい楓の若葉につつまれてまさに春爛。この美しい学園に中谷先生御夫妻を囲んで集う先生方と卒業生は126名。この日のために遠く関西・北陸・東北の各地より馳せ参じた方々もあります。和やかな雰囲気の中に矢部桂子さん(19年)の司会によって会は始まりました。

讃美歌463番が心をこめてうたわれます。先ず会長中屋さん(7年)より感謝の言葉——先生は昭和11年に女子大に來られてから今日まで、戦時中の一時期を除き、20数年の長い間学生たちをお教え下さり、又研究会のゼミを長年受けもって下さり、殆んど卒業生がお世話になっています。なおこの4月より他の大学に移られた後もゼミだけは当分お続け下さるとのことで、本当に有難いことです。——と一同を代表して感謝の気持を述べられました。

次に研究室の代表として根岸先生(24年)より——先生はいつも若々しくてどうしても停年という実感が湧きません。学生の名前を実によく覚えられる先生や、学生の世話をよくして下さいる先生について話されました。

教学研究会の川喜田弘子さん(11年)からは——どんな質問でもまじめに取り上げて下さる先生について、又奥野千恵子さん(24年)からは——終戦直後の物資不足時代の面白いお話もとび出しました。

小林先生は“中谷先生のお人柄にはリズムと調和がある”というようなお話を、平野先生からは“中谷先生には、安井先生がよく仰言った something のようなものをもっていらっしゃる方であるというお話があって、いずれも中谷先生の豊かなお人柄をしのばせました。

続いて中村先生、松原先生、そして卒業生の喜安さん(18年)、鯨井さん(43年)より先生についての思い出話がありました。

記念品贈呈——鯨井さんが代表として、記念品の目録に藤と海棠の盆栽とお菓子を添えて差上げました。

中谷先生の御挨拶より——20数年にわたるおつきあいを顧みて、つくづく女子大にいてよかったこと、又東京女子大学は本当によい大学であることを述べられ、4月か

近況報告……………16

数 学 教 室

その後の数理学科……………小河原正巳 ……18

研 究 の し お り

練ようかんの官能検査……………中屋澄子 ……23

コンピュータに近づく三つの道……………山本欣子 ……28

雑 感

アメリカ便り……………玉河喜美子 ……32

ベテラン……………石川 英 ……35

卒業後のこと……………亀岡純子 ……35

報 告

研 究 部……………36

厚 生 部……………40

S・S 会……………40

数専会経過報告……………41

会 計 報 告……………42

編 集 後 記

らは日本工業大学にいますけれども、数専会には今日から入れて頂くつもりですからどうぞよろしく——と結ばれました。

このあと、24年卒業生有志のオンチコーラス。そして一同で“中谷先生でんわのうた”(別掲)を合唱、和気霽々のうちに——先ず閉会とし、図書館の前で記念撮影をいたしました。

この日は思いがけぬ出席者多数という事態に幹事一同うれしい悲鳴。キャフテリアの御好意で作られたすばらしいサンドイッチを盛りつける人、カップやスプーンをならべる人、ケーキを分ける人……皆さんに手伝って頂いて、建ったばかりの新キャフテリアの会場は終始心あたまる空気に満ち溢れておりました。(堀 記)

中谷先生御退職に際しての記念品について

山 本 敦 子

中谷先生が昭和44年3月をもって定年御退職なさいますと伺いまして、何か先生に喜んで戴けるような記念品を差しあげたいと考えまして皆様におはかり致しましたところ、教職員同窓生あわせて587名の方々から、総計777,100円が集まりました。

先生の御希望を伺いましたところ、御自宅の書庫の改築の費用にあて、記念になさりたいとのことでしたので、諸経費53,600円を差し引いて72万円を、5月10日に中屋澄子会長、根岸愛子先生、山本敦子が、先生の御宅に伺いまして季節の果物、お花と共に目録を差しあげ、現金は先生の銀行口座に振込みました。尚3月末で募金を締め切りましたが、6月に入ってもまだ振替が入ってまいりましたため、報告書の発送が大変遅くなりましたことをお詫びいたします。不行届の点何卒御許し下さい。会報紙上をお借りしてご報告並びに御礼申し上げます。

ご あ い さ つ

中 谷 太 郎

秋分の日となりました。皆様にはごきげんよくご活躍のことと存じます。3月末日、東京女子大学を定年退職してからはや半年になろうとしています。母船を離れたボートが大洋の中をただよっているような心境です。そして20数年にわたる在職中、諸先生、皆様方から頂いたご厚情、ご援助を感謝するばかりでございます。

平野先生、小林先生のお世話で、私のはじめて女子大学にまいりましたのは昭和11年4月(二・二六事変の直後)でした。数学専攻部の学生数は上級から14, 6, 5, 6 計31名だったかと思います。その年度に文部省の、中等学校数学科教員無試験検定資格取得のための試験に合格したこと(これが女子のため数学の門を広く開く契機となりました)、「森と湖」の善福寺公園や井の頭公園に「お散歩」に連れていってもらったことが昨日のこのように思い出されます。

それから年を追って数専の学生数も増加し、30名近いクラスになりましたが、世の中の情勢はいよいよ陰しく息苦しくなり、逼迫した空気は緑の杜の中にもおしよせてきました。昭和16年4月、私は女子大学から陸軍予科士官学校に転任し、終戦時までおよびましたが、20年10月、はからずも再び女子大学に迎えられ、それから22年半動続し、昨年秋催された創立五十周年に参列する機会に恵まれました。初期のころ、子どもをプレーダーに連れてきたことと、近年孫を文化祭に連れて芝生で遊ばせたことを思い合わせて、50年の半ば以上を女子大学の歩みの中で歩んだ実感を覚えている次第です。

戦後の数学は大世帯で、75名のクラスもありました。ようやくおとずれた平和の中で、学びそして遊んだ雰囲気は、今考えても夢のようです。しかしきびしい学制の改変によって、数学科は短期大学部の2年制数理科に転換され、29年に3年制に改編されました。しかし数専会のなみなみならぬ熱意とたえざるご援助はついに結実して、36年4月文理学部数理学科の実現をみるに至りました。私が在任中もっとも深い感銘を覚えた出来事でした。それから8年、数理学科はますます充実し、今後の隆盛が期待されます。

4月19日、校庭に八重桜の咲き満ちる午後、数専会主催によって、私のため心もる盛大な会をお開き下さり、家内までお招き頂き、まことに感激でございました。席上、諸先生、皆様方から身に余るかずかずのお言葉を賜りましたうえ、多大の記念品を頂戴いたし感謝にたえません。ご厚志有難く拝受いたし、記念に書庫をつくり改築をさせて頂きました。お序の節お話にお寄り下さり、ご覧頂ければ幸と存じます。

4月から東武線杉戸駅に近い日本工業大学に出勤しております。美味しい巨峰の産地です。東西線で通い、吉祥寺と西荻窪の間で北東から北西へ約90度方向を変える白い塔を望見するのも楽しみのひとつです。毎月一度数専会のゼミに参加できることを大きな喜びとしております。

諸先生、皆様様のご健勝と数専会のご発展を心からお祈りいたし、今後とも相変わらずご交誼のほどをよろしくお願い申し上げます。意をつくせませんが、お礼とごあいさつにかえさせていただきます。

中谷先生の感謝会に列席して

小林 薫 一

本日この意義深い中谷先生の感謝会に出席し、一言感謝の言葉を申し述べたいと思っ
てここに立ち上った次第なのでありますが、実のところなかなかその実感がわかず
とまどっているところなのであります。お見受けしたところまだ若々しく、とても65
才になられたとは思われないからであります。

私と中谷先生との関係は非常に古く、はじめておめにかかったのは、1936年4月で
おたがい30年代の青年でありました。当時の記録を調べてみますと、この年に規則の
改正があり、いままでの4年制度が予科1年、本科3年の制度に改められたのであり
ます。また、学生数は

4年生……14名 3年生……6名 2年生……5名 1年生……5名

で計30名、教員数は

専任として3名……平野、小林、中谷

講師として7名……国枝、阿部、蓮池、岩間、鍋島、四野宮、湯浅

でありました。そして、この時期は数学専攻部（数理学科の前身）にとりまして、最
も苦難のときでありまして、学生数は年ごとに減少してゆき、ほとんど枯死寸前の状
態にあったのであります。このとき、中谷先生はこのことを承知の上で本学に就任さ
れ、われわれと共に苦楽を共にされましたことは、大学にとってはもちろんのこと、
私たちにとっても有りがたいことであります。今日の女子大学の隆盛の姿をみるに
つけ感無量なるものがあるかと推察する次第であります。

私が中谷先生とおつきいをはじめから、この方不思議に思われることがありま
す。それは33年間に一度もケンカめいたことはもちろんのこと、不愉快な思いをした
ことがなかったということでもあります。夫婦の間でもこう長くなりますと、一度や二
度記憶に残るような思い出があるものであります。これが一つもなかったということ
はひとへに先生の人柄によるものでありまして、このようなお方にめぐりあい、同僚
としてながく生活を共にすることができましたことは、この上もない幸のことであり
ました。

さいごにもう一つつけ加えたいことは中谷先生は「一つの楽壇の名指揮者の感があ
った」ということであります。いつもあせらず大いなる調和のなかにクラスをまとめ
て行かれたあの姿は敬服に値するものであります。

最近とくに感じますことは人生における幸福は健康にまさるものはないということ
であります。どうか健康には十分留意されていつまでも若々しく元気にお過ごし下さ
いますようお願いし、簡単ながら感謝の言葉といたします。 (1969. 4. 19)

中谷先生を送るに当って

中 村 進

8月12日附の厚ぼったい封筒が突然送られて来ました。中には原稿紙が入って居り
4月の中谷先生の送別会の折私がしゃべったことを文章に書いて送り返すようにとの
委員からの注文でした。あのときは突然の指名だったので即興のユーモア交りで話し
たのですが何を話したのか健忘症の私はあまり覚えていませんし、そのときの気分にな
って書けと言われても俳優の素質のない私には間がぬけてとても出来そうもありません。

しかし、中谷先生に対する尊敬と感謝の気持だけは今も昔も変わっていないので、それ
ならば文は下手でも何とか綴ることが出来るでしょうと云うわけで、筆を取った次第
です。

先生に初めて御目に掛ったのは昭和16年3月末、先生が陸士に移られるとき私が後
任としてその事務引継ぎをしたときでした。その帰り途、女子大通りを駅まで二人で
歩きながら、女子学生に対する心得など色々承りました。その内容は忘れてしまいま
したが、女子学生を受持った経験もなく、特にはずかしがりやだった私は先輩の教訓
として有難く拝聴したものでした。

戦争が終って21年4月、先生は再び女子大に帰って来られました。旧数学科（3年
制）が廃止になり、新制短期大学部数理科（2年制）が発足するときは先生は短期大
学部教務主任として学則・学生要覧・授業内容等々の作制に真に繁雑な事務を受持た
れ、それらをテキパキと処理される様子は私など只感服して見ている有様でした。

三年程して新制の基礎が一応出来上った所で教務の仕事は私にバトンタッチされた
のです。専門部時代、戦時戦後の非常時には、小林先生が教務として見事な統率力を
発揮されました。それから中谷先生が引き継がれたのでした。

元來どこの学校も教務は数学の先生がやられている場合が多いのですが、理由は
その合理性・正確さが事務能力として買われるからでしょう。しかし私の場合は別で
す、全く自信のないことでした。ただ他の科の人達が数学科の者だから出来るだろう
と簡単に考えたまでのことです。私としては辞退したいこと山々でしたが結局引受け
ることになったのは、短期2年制の数理科を、やがては3年制に、そして4年制にと
元の姿に帰さねばならないと秘かに考えていたので、そのためには教務に数理科の者
がたれか居なければ、来るかも知れない折角の機会を取り逃すおそれがあると考えた
からでした。既に中谷先生によって敷かれた教務の軌道をただ走って居ればよかった
私はその面では楽な仕事でした。

先生は学科の方でも新しく必要になった教職課程や統計など、私などはとても気が

向かない面倒な学科を引受けられ、しかも数学教育など数年にして一家をなすほどの若々しい頭脳と、その努力振りには感服の他ありません。先生の若々しさについては今更申上げる必要もありませんが、未発表の件を一つ記録に残しておきましょう。

いつだったか石井さんと云う昔満洲で銀行員だった方がはじめて会計課に入られた頃です。健康保険か何かに先生方の年齢を記入しなければならないときです。石井さんは私に聞く前に推定年齢を鉛筆でうすく書き入れていました。ひよいとのおぞき込むと私の年は55？中谷さんの所には45？と書いてありました。私はその頃すでに白髪だったので5,6才年上にみられても仕方のないことですが、中谷さんの45才には少驚きました。

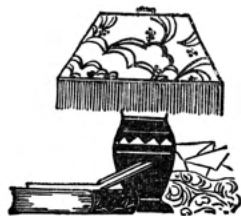
しかしこれは先入観を持たない人の見た所ですから、中谷さんの若さの実力によるものと観念せざるを得ませんでした。とにかく先生はその永遠の若さを傾けて数学科の再建にはげまれたのです。

戦後の数理科において、永い永い苦難時代を耐えて、再び現在の隆盛を迎えるに到ったのは高木学長の英断、数専会の方々の応援力はもちろんのことながら小林先生の統率力と中谷先生の緻密な女房役の名コンビに負う所が大きかったわけです。

さきに平野先生、小林先生を送り、今また中谷先生を御送りすることは私にとってはほんとうに淋しいことです。やがて間もなく自分にも順番は廻って来ることですがこれが人生と云うものだろうと何だか淋しさがはだにしみるようです。

数理学科のことについては小河原先生を中心として立派な先生方を御迎えすることができて、今や春の開花期に入ろうとしています。冬の冷寒期を耐えてきた私達古い葉は新しい芽を育てる為に今やいさぎよく茎を離れることが大切なのでしょう。

しかし古い葉は、その木の根元に落ちて肥料となり、再びその木の開花を守りたすけるものです。平野先生、小林先生、中谷先生いつまでもおすこやかに、たとえその茎を離れても、数理学科の成長と開花を末永く見守っていて下さるよう御願ひ致します。



中谷先生のこと

(17年) 関 桜

その1「お楽に……」

虚弱だった私は、よく学校を休んで欠席届を先生の所へ持って行った。そんなある時、先生は私の顔を見乍ら、「お楽に……」と仰言った。ちょっととまどったあと、この先生なんて「良い人」だろうと思った。こんなときに費す百万言を先生は胸の中にてためて居られたのだろう。それが「お楽に……」の一言に集約されたのだと私には想像がついた。

その2「エプシロン・デルタ etc.」

黒板のエプシロンの文字は多分30年来合同、デルタは定規で書いた三角形、まるで印刷された活字。指先を真白にして正確無比の記号を書き並べられた。ついでにその白墨だが、ちょうど巻煙草を持つように人さし指と中指にはさまれ、頭の方を親指でおさえながら、黒板に背を向けて書かれたものである。後年教壇に立った時、我知らずそんな持ち方をすることがあって頬笑ましかった。ついでに白墨だらけの手で椅子の背を撫でてみた。これも先生の七くせの一つであった。

その3「粗野にしてノーブル」

我々の級には豪傑が多かった。冗談といたずらは最も好むところ。ある時、英・国との合併授業を僅かの人質つまり代返を残して一斉に蒸発した。勿論発覚、私達は直接お叱りを受けなかったが、担任であった中谷先生は間に立って随分困られたのではないだろうか。貴女方は「粗野にしてノーブル」だと云われたのはその頃だろうと思う。私達はその言葉が気に入った。暫くは事に当って「何しろ粗野にしてノーブルだからね」と流行をきわめたものである。

その4「だましだまし」

最終学年の頃、太平洋戦争がまだまだのきな頃だったが、勤労奉仕なるものがはじまった。日赤のホータイ巻きはまだ何とかかっこうがしたが、その外の奉仕は校庭の草取りであった。長い袖にエビチャの袴をはいても、木蔭に坐り込んで箒片手に雑談していても「勤労」であった。気がついて先生はと見廻すと、カンカン照りの土にうずくまって何やら一所懸命である。近づくと長い頑固な根を持ったタンポポにいでんて居られる。根の周りに円をかくようにヘラを深く入れて、少しずつまわりの土をゆるめて行かれる。「こうしてね、だましだまし抜くんですよ。」それ以来私は時時思う。良い気になっているうちに、「だまし、だまし」の先生のペースののっているんじゃないだろうか。

その5「チューター」

つい先年、先生の御命令でチューターと云うのを経験した。要するに中学へ出向く実習生の様子を見て来ると云うことなんだが、一人一人の学生のことを実によく承知していただけるのに驚いた。あんなに終始ニコニコしてあまり表情をかえられないのに、学生を見る目は実に鋭いと思った。そしてそれにもまして、一人一人に対する心遣いの深さにも驚いた。先生と云うものこんなに学生のことを気にかけていただけるのかと今更のように嬉しくなったのである。往年の我々、さぞかし気にし甲斐のある学生達であったろうと。2週間の実習期間の後先生のお宅へ伺った時、心のもった御手料理を御馳走になった。20年余り主婦稼業をしていると、手料理でもてなすことがどんなに大変なことか身にしみて知っている。奥様のお人柄と思うし、又先生のお人柄の反映でもあると思うのである。

(11年) 川喜田弘子

中谷先生が停年で学校を御退職になるなんて信じられない位、先生はいつも若々しく、いつも新しいものをみつめる心をもって居られます。ですから、昨年の秋、私共の読書グループで、先生からそのお話をうけたまわったときは一同耳を疑うほど驚きました。でも、その時、「この会には、出席するようにしたい」というお話で、この会をこんなに大切に下さる先生のお心をありがたく思ったのです。この会の中谷先生ゆえにつづいている会だからなのです。

私事ながら、私の在校中は先生はまだ女子大に見えて居られず、従って在校中のいろいろの思い出はないのです。しかし、数専会の方からの御依頼で、この不勉強な私が読書グループの運営をしばらくするようになりましてときからの長い間の先生の御指導には何とお礼を申し上げてよいかわかりません。読書グループの今までの状態は、栄枯盛衰ならまだしものこと枯々衰々の状態でしかも決して切れずに、長年つづいているのは中心に中谷先生が居られて、私共のよりどころになって下さるからなのです。

先生がかつて読まれた本をくわしく御存知なのは頭が下ります。著者、書名、出版社はもとより定価まで教えて下さいます。そして会の終りには必ず数冊の本を見せて下さって、この本はこれこれ、と説明して下さいます。私の様な怠け者に対しても、こんなへまな相手には適当にあしらっておくなどという事は先生は絶対になさいません。私達の読書会が、何となく人をひきつけるのは、すんでからはつむ先生のお話が豊富な知識からつぎつぎ発展する面白さにあるのだと思います。

とりとめのないことを書き連ねましたが、終りにもう一度……

先生、今まで長い間御指導下さいましてありがとうございました。同時に今後ともいつまでも読書グループをひっぱって下さいませ。

(19年) 矢部桂子

月曜日の7時間目、その前は音楽と体操、それが朝霞の士官学校からかけつけて下さる中谷先生のお授業時間でした。昭和16年、予科生の私たちはついついモーローとして(私だけかも)……。一学期だけ「解析」をお習いしてその定期試験があの12月8日だったことも忘れられません。(途中でどこからか開戦のラジオ放送がきこえていました)それを又大失敗してもう中谷先生にはおあわせする顔がないはずだったので。12月にくりあげての卒業生送別会では、先生の前でいっしょうけんめい小さくなって居りました。それが、いつまでも乳離れの悪い子供のように研究会に入れて頂いて数年、先生の御指導を頂くようになって、これ又オサンドン片手間ということに甘えて誠に劣等生、時としてモーローとなつては何しにはるばる通うのかとお恥ずかしい限りでございました。

中谷先生の感謝会に「次は何です」「次は何です」とだけ云う役をひき受けてほしいと、誠に言葉巧みに電話で説得され、おこがましくもとうとうおうけしてしまったのも、実は長年の重なる罪亡しを少しは果さなくては申さないとの劣等生の気持ちでございました。

八重桜のみごとに咲いた陽春の午後、新しい校舎の広い部屋に多ぜい集つての感謝会、二人並ぶのはあの時以来と仰言の中谷先生御夫妻を中心に、大先輩から今年卒業の方々まで、又そのほとんどをみて下さった先生方、現在の、これからの多難な母校を担って下さる諸先生、遠くからそのためにかけつけた人々も加えて、和気あいあい、楽しくも清々しい集りでございました。司会のドキドキも心配もみな消え失せて(許して頂いて)終りの時間だけを気にしながら、先生への感謝と同時に女子大に数専会に連ることを誠に嬉しく思った一日でございました。

その日、御叙勲の内定を伺って御祝ひ申上げた時、思わず握つて下さった平野先生のお手の暖かかったこと。ますますおやさしく眼が御不自由と伺い乍らも、遠くから一人一人を見わけて下さる先生、角筈時代には母がお世話になり、娘の入学卒業をも喜んで頃いた平野先生のいよいよおすこやかに元気でいて下さるのは本当に嬉しいことで、9月の御授賞記念会がたのしみでございます。

時の移り代りと共にますます多難な秋、両先生はじめ先生方の御健康と数専会の和やかな発展を心からお祈りいたします。

次々のお磨立て、進行、そしてあとしまつ等々いつもいつも縁の下で文字通りS & Sではからって下さる幹事の方々には正に感謝 & 感謝でございます。

お役ずみと思つてました私に原稿用紙が廻つて来て又ビックリ、劣等生のお詫びと御礼の一言でございます。

(24年) 安倍 穂子

或る日、私達数人が集って例の通り、とりとめのないおしゃべりをしている内に、話はだんだん昔へと遡っていった。いつも私達の話はそうなのだ。現在只今の話が終る頃、誰かが「ああ、あの頃は」と言い出す。もうとっくに語り尽された筈の話を、ちょうど始めての事のようににこにこ話し出す。その話の酣にきまって登場するのが、御存知“太郎ちゃん”だ。

太郎ちゃんは歌がお上手だった。より正確には、お好きだった。その昔、朗々たるボーイ・ソプラノは西寮前のスロープやホッケーフィールドに響き渡った。お互いさつま芋やうどんのおなかで、集まっては歌い、笑っては歌い、その輪の中心に太郎ちゃんの御顔があって、恍惚と歌っていらしたのを思い出す。コーラスというのは概ね廻りの声との調和を考えてハモるのが原則だと思うのだが、太郎ちゃんの場合そういう事はどうでもよかった。歌う事がただもう楽しくて……という御様子だった。

そういえば同じ寮裏でのプレイディヤ、野球も楽しかった。太郎ちゃんは何の場合も大張り切りだった。「這ってでも出たいよ」と云っておられたという先生方の仮装行列は、プレイディの見ものだった。めいめいの胸のハンカチに名前をつけて幼稚園の子供になった先生方に、私達は大爆笑、中でも太郎ちゃんはそっくり園児そのもので果して仮装かと見紛う程だった。日頃厳肅な小林先生、中村先生、天達先生もニコニコとエプロン姿で可愛らしかった。

1年生の時の秋の遠足は鎌倉に出かけた。古い写真を見ると太郎ちゃんも御一緒に誰かがお菓子らしいものを載いて嬉しそうにしている。実に不自由な時代だった。今の子達にはどんなに口で云って聞かせてもわからないだろう。腹の中から襲って来たあの虚無感は、口から手へとつながって、食べられる物には何にでも手を出した。そう云えばその頃の圧巻は太郎ちゃんとNさん合作の、だし入り汁粉だ。当時は食べ物にもまして住居が足りなかった。まだ焼跡の壕舎に暮らす人が大勢いた頃だ。地方出身のNさんは、寮も満員下宿も見つからず困り果てた末に、とうとう太郎ちゃんに拾っていただいたのだ。と云っても先生御自身当時は学校近くに下宿していらして、生徒の世話なんぞして戴くような優雅な御暮らしではなかった筈だ。転がり込んだNさんもNさんなら、気持よく引受けて下さった先生も先生だ。どうも今になって思うと当時の人々の気持には乙に澄ました所がなくて誰も彼も戦に負けた同志じゃないか。困る時はお互い様という心易さがあった様な気がする。半年ののちやっと空室が出来て入寮出来る事になったNさんの引越しの日、太郎ちゃんとNさんは額を集めて相談した。手伝いの飢えたる者共に何を御馳走しよう、そうだ、汁粉だ、汁粉には何がいる、小豆だ、砂糖だ……、ところで汁粉のだしには何を入れる、そりゃあ勿論煮干でしょう。リヤカーで荷物を運び終えたみんなは、先生と一緒に神妙な顔をして珍なる

汁粉をいただいた。

その頃は生活全般に重圧がかかっていたので、どうしても思い出はそちらに片寄せられ、太郎ちゃんには勿論、数学も教えていただいた。ややもすると黒板の下半分ばかりが埋まりそうになるのを、無理して手を伸ばし、爪立ちして書かれた沢山の数式を思い出す。チョークの字は力強く大きく、御声ははっきりとよく通った。それでも理解出来ないのは私が悪いのだ、と思わずにはいられなかった。

20数年たってしまった思い出は、だんだん薄れて大方は消えてしまったようだが、集ってはしゃべり笑いあういくつかの名場面は、皆の頭の中でだんだん鮮明になってゆく。中谷太郎先生の若かりし頃の御姿や御声も、そのたびに鮮やかに甦るのだ。

(44年) 鯨井 洋子

中谷先生が停年退職なさるというニュースを聞いた時に果たして『えっ!?!』と反問しなかった人がいるでしょうか？

入学以来、ほとんど常に同じ表情を示され、笑顔と大きな眼で私達に接して下さいった先生。又私達学生同志の会話では先生の事を‘太郎ちゃん’、‘タローちゃん’、と呼んだりして……。

これも先生のお人柄の表われなのでしょう。こんな事からしても万年青年といった感じの先生が御停年だなんてみんな信じられなかった事と思います。

早いもので卒業以来1年が過ぎましたが、女子大での生活を振り返った時に忘れる事の出来ない顔の一つです。

4年の教育実習の折なども色々先生に御指導いただきました。又現在の数学教育の問題点などを大変興味深く教えていただいたものです。学生とも積極的に語られ、又学生のよき相談相手でもあり先生にいろいろと相談を持ち込む学生も多かった様です。ほんとうに女子大とは切っても切れない縁の先生が去っていかれる事は大変淋しい事であり、残念ですけれども、読書会等において私達数専会の良き指導者として今後とも御指導下さいますようお願いいたします。

楽しかったこと

(22年) 青木 隆子

終戦になって、戦争中の勤労動員からやっと教室に帰り、勉強出来る様になった私共には勉強する本がなくて古本屋を探し歩いたり、お休みの日には食糧を得る為に買い出ししなければならぬ時代でした。そんな苦しい学生時代の中で、中谷先生がプ

レイディや級会の折々に草笛をふいて下さったり、共に歌を歌って下さった事がオアシスの様に楽しく思い出されます。殊に先生の草笛は有名で、今でもその音が耳に残っております。

卒業して勤めを持ち、家庭を持ち、教専会の研究会に出席する様になり、又先生にお世話になる事になりました。何も予習出来ない時でもお勉強の後の先生との会話が楽しくて、それにつられてつい出席してしまい、お勉強の間は小さくなっていますのに、終わったとたん急に元気になって、その時々々の社会問題について——大学の入学試験の様子、大学紛争問題、中学高校の教科課程等々——お話し合いました。今から思いますとずい分生意気な事を先生と議論したものと恥ずかしくなりますが、先生の社会問題に対するフレッシュな感覚にびっくり致しております。

中谷先生デンワのうた

先生 作詞
作曲

ミミヨ ミフフフ こんにちは
これは タロウの でんわで す
ミミヨ ミフフフ こんばん は
どうぞ いつでも ダイヤル を

中谷太郎先生 杉並区久我山4-26-3 〒167
御住所 TEL 334-3222

湖は呼んでいる

作詞 P

作曲(試案) Taro (43年秋)

たいようが わらっている あおぎりが うたっている
かぜが おどつて とおりすぎる そして みずうみが よんでいる
あおいとうは いつでも ここにいる
しんじていいんだ このしみじみした なつかしさを
このころあたたまる しあわせを

「湖は呼んでいる」
作曲 中谷太郎
作詞 P
太陽が笑っている
青空が歌っている
風がおどって通りすぎる
そして 湖が呼んでいる
青い鳥は
いつでも
ここにいる
信じていいんだ
このしみじみした
なつかしさを
この心あたたまる
幸せを

平野先生お祝い会

と き 昭和44年9月6日(土) 2時~4時半

と ころ こけし屋新館3階

私達の平野雪枝先生が、その長い間のご功績により、すぐる4月29日、勲四等宝冠章を授章なされました事は、皆様既にご存じのことと思います。このたび、平野先生をお迎えして、先生方にもご出席頂き、直接平野先生にお教えを受けた卒業生が、西から北から100余名程集まり、心から“おめでとうございます”の会を持ちました。

池野さん(昭10)のユーモアに溢れた司会で会は始まりました。はじめに、会長中屋さん(昭7)の開会のことば。——まず先生の授章なされた事が、新聞、そして学報にものせられ、ご存知の方々が、多くなり、皆様の心からのお祝いの気持となり、みんなで“おめでとうございます”を申し上げる会を持つまでに至った経過をお話してくださいました。会のおしらせに対し(平野先生に直接お教えを受けた6年卒~36年卒の方にしらせがまいました)会員の皆様からの返事もどンドン来て、半数以上になり、皆様方のお祝いの気持が切々とわかった事などもお話くださり、記念品については、先生に強くお願いしてご希望を伺った事などの説明をしていただきました。

次に副会長朝永さん(昭10)の皆を代表してお祝いのことば。——40年にわたって、数学科の創設をはじめ、社会に信用ある卒業生を世にお出しくださった先生のご授章は当然、時期なお遅しという感じで、先生のご性格として、御叙勲前も後も当然お褒めないと存じます。今後共いつまでもお元気に私共をお導きくださいます様に。——とこの会に出席出来た方、出来なかつた方々の皆の気持をおのべになりました。

次に皆のお願いで、宝冠章を彰状と共に、各机に回覧して頂き、つけたい人はちょっと胸に当てたり、裏返して見たりして身近に拝見しました。

ここで、平野先生へ記念品贈呈。

平野先生のご挨拶。——今女子大の危機にたち、皆様は心を痛められ、外に在る者も憂えている時に、叙勲のお祝いどころではないのにおっしゃられ、又自身未熟で人生のやり直しもきかず、卒業生に対して恥ずかしいと思う——など、先生の余りにも謙虚なお言葉の後、最近の九州のご旅行の様子。あちらに在住の卒業生のお心づくしと、雄大な自然とに接せられた喜びを、昔、安部先生と共に、旅された九州の思い出を折りまぜて、お話してくださいました。

そして小林先生のお声で、ジュースの乾盃。一同のどをうるおしました。“お年のお若い小林先生から順にお祝詞を”との池野さんの司会で、

小林先生は——身近な方がこの様な恩典に浴され、非常に嬉しく、敬意と尊敬の念

を以てこの会にのぞんだ——と語られました。

中谷先生は——平野先生のご授章ではじめて叙勲に関心を持ち、数学研究室と社会とのつながりを感じ、集って居る卒業生を見ると、数専会という名によって、先生のまかれた種が育ちつつあると言う事を、力強く感ずる——と語られました。

中村先生は——本当の教育の功績者は隠れた所にいらして、平野先生は、当然推奨されていい方だと以前から思っ居り、数学科の精神的な指導は、平野先生にあったと思う——と語られました。

小河原先生は——平野先生のご功績を証明するものは、ここに並んで居る卒業生諸姉です——とおっしゃられ、現在の数学研究室の先生方の紹介をしてくださいました。

また、24年卒の方々が山中湖合宿特訓で練ったコーラスで、この会に一段と花を添えてくださり、その中の一曲、“今日の日よさようなら”という新しい歌を、この方方の指導によって全員おけいこもしました。

その後、山下さん(昭9)、原さん(昭19)、大阪の飯田さん(昭7)、仙台の八木さん(昭18)、清野さん(昭32)が次々に立たれて、それぞれ思い出と共に、心からのお祝いの言葉をのべられました。皆様のお言葉そのままをここにおのせする事が出来ず、申し訳ないのですが、割愛するには勿体なく存じ借越乍ら少し要約させていただきますと、

- ・ 在学中から数学を勉強する事よりむしろ、平野先生の様な人柄になろうと、先生のお心を心とする様心がけて来ました。
- ・ 女子であられる先生が、授業だけでなく、大きな学校の会計面と両方背負って、表にあらわされず重荷を負っておられたお姿を今になってしみじみと思います。
- ・ 数学を教えて頂く他に、学生時代一人一人の心の問題について相談相手になってくださり、昔から、今のカウンセラーの役目をしてくださいました。
- ・ 今は盛大な数専会の、終戦直後、その存続がとてもむづかしくなった時も、非常にお力をそえて、お助けくださいました。
- ・ 戦争中、寮生をお宅に招待してごちそうしてくださり、家と連絡のとれない学生を、励ましてくださいました。
- ・ 先生の様なよい先生にはなれないけれど、先生を私達の目標として進んで行きたいと思います。
- ・ このたびの勲章は、私達の気持を、政府が代弁してくれた様に思えて、本当に有難く思います。
- ・ 昔がすべてよいとは思わなくても、昔のよさを今の時代に生かせる様な女子大又数専会にして行き度いと思います。等々でございます。

その後、しばし平野先生お席訪問の時間があり、副会長山本敦子さん(昭23)の開会のことば。それから先程練習した歌の全員コーラスを最後に会は終わりました。

平野先生、どうぞいつまでもお元気でいらしてくださいませ。(千木記)

平野先生御受章記念の御祝品について

山 本 敦 子

平野先生御受章の報が伝わると、全国から何かお祝いをして差しあげたいとお声がかかり、皆様に御相談いたしました結果、9月6日にささやかなお茶の会を開くことになりました。

当日、席上で何か記念になるような贈物をしたいと先生の御希望を伺いましたところ、持ち運びの楽な小さいトランジスタラジオが欲しいとのこと、他には新渡戸稲造全集が座右に置くのに前から欲しかったけれどまだ買っていないとおっしゃいましたので、早速電気にくわしい方にしらべていただいて、小さいけれど性能のよいFM用トランジスタラジオ（定価14,800円）と教文館発行の新渡戸全集全16巻（予約販売価額3万円）のうち発行済の5巻を御贈りしました。あとは発行の都度教文館から直接先生のお宅に送られることになっております。

皆様から御送り戴きました記念品代と、会費の一部が生れ変って、先生に喜んでいただける品物になりましたことを報告できますことは大変嬉しゅうございます。尚、当日の会の模様はテープに納めましてスナップ写真と共に先生のお手元におとどけいたしました。会報紙上をお借りして御報告並びに御礼申し上げます。

近 況 報 告

平野先生御受章祝賀会の通知の返信にお書き下さいました会員の近況の中から幾つかえらんでのせさせていただきます。御出席、御欠席に拘らず殆んどの方の返信に「平野先生御受章おめでとうございます」、「心からお慶び申し上げます」のお祝いの言葉が書きそえてありました。係りのもの一同圧倒されました事をかきそえさせていただきます。

上 川 保 子 (13年) 来年の万博にお出かけの会員の方がありましたら、何卒御一報ください。此方の数専卒の方々にご連絡致します。一度関西で数専会開いてもよろしいと思いますが、いかがでしょうか。

吉 田 和 代 (16年) もう2年程で停年になる筈ですが、元気で若い人達の相手をして居ります。

竹 井 倫 子 (17年) 私は和歌山信愛女子短大附属高校につとめています。上の

女の子は女子大に行かせようと思ったのですが、英語はいやだと云って大阪外語のロシヤ語へ昨年入りました。下の男の子は今年高3で大学がどうなるのかさっぱり分からず困っています。

飯 塚 恭 子 (20年) 卒業いたしまして20年余り、殆んどの方にお会いいたしておりません。熊本では女子大に關係のある方がいらっしゃいますとそれを機会に同窓会をいたしております。8月始め熊本で数学教育研究会の全国大会が開かれました。その折平野先生ははるばるのお出かけ下さいました。先生は特に数学のものだけに会いたいとの事でしたので他の方は集らず数専会にいたしました。16年卒業の方が3人近くにいらっしゃいまして、その方達が天草五橋から天草の南のはし迄御一緒なさいました。途中道が悪いので心配していましたが先生はとてもお元気でございました。ただ熊本の暑さにびっくりされたようでした。夕方熊本の名所水前寺公園を御一緒に散歩し、夜は先生からうなぎを御馳走になり、皆で久しぶりに甘えました。先生のお宿で豊泉様とお会いしお祝の会のことを伺いました。

東 山 貞 子 (22年) 昨秋記念式典には平野先生はじめ、数学の先生方にお目にかかせていただき、本当に嬉しゅうございました。気分だけは学生の時と同じ若いつもりですが、今の学生の気持を理解することの難かしさに途惑いしながら北海道教育大学釧路分校に奉職いたしております。

石 野 和 子 (22年) 丁度写真の個展の日どりが殆ど同時となり残念ながら追分へは参れませんが。又平野先生のお祝いの会にもぜひ伺いたいのですが、9日から主人とインド、アフリカ等へ出発の予定ですので直前の事とて参れませんが。9月一杯で帰ってくるので本当に残念です。長男は金大医学部2年、長女高校3年で東京女子大をめざして勉強中、私自身は写真、俳句、謡、鼓、小唄等勉強中、姑、主人、子供4人、私、みな健康といったところです。

島 妙 子 (22年) 東北の片田舎で眼科医院をやっています。数学にはずっと遠ざかっていますが、終戦をはさんで大変な時代平野先生に本当にお世話になりました。

秋 山 純 子 (23年) 4月末から体を悪くいたしまして寝たり起きたりの生活をしておりますので、残念でございますが欠席させていただきます。追分も今年は行けなくて淋しうございます。

佐 竹 そな江 (23年) 長い病院生活をしましたが、どうやら一人前の生活が出来るようになりました。

岩 崎 竹 子 (24年) 昨年4月、転居を境いに17年11ヶ月勤めた結核予防会を退職して、目下家で出来る仕事を暗中模索中です。1夫、1女(小6)、1男(幼)の四人家族の生活が平和過ぎて退屈し、バレーボールやコーラスに出かけて行

っては一時的に渴を癒しております。今日3日満40才に到達、前途を思って気分を引きしめてはみたのですが、連日の暑さでその後はまたゆるみっぱなしです。

小林 美弥子 (25年) 医師として医療に従事するあけくれで、数学の世界から遠のいて淋しさを感じる此の頃です。

森 嶋 瑠 子 (25年) 主人がイギリスの大学に勤める事になりましたので、昨年9月よりイギリスに居ります。今年の夏休みは子供3人連れて一寸帰国致しましたが、又8月16日に羽田をたってイギリスに参ります。会の御様子をイギリスの空から想像し、御盛会をお祈りしております。

なお、イギリスでは、今はエセックスの田舎にありますが、来年にはロンドンに移ります。ブライトリングシーという町は、ロンドンより汽車で東へ1時間、そこから10マイル車で南に下ったところで、人口5千人の小さい町です。もしお出で下さればお宿します。

篠 井 順 子 (30年) 私は家業をついで商店のおかみとして元気にやっております。長女(小4)、長男(幼)の母として何かと雑用に追われています。

中 村 明 子 (32年) 電子計算機の学校でプログラミング数学を教えています。

池 田 寿美子 (平岡) (35年) 今年5月結婚しました。アルミサッシの会社の会計の仕事を続けて働いています。

大 沼 葉 子 (36年) 現在私は日本楽器仙台支店でエレクトーン講師しをしております。

数 学 教 室

その後の数理学科

小 河 原 正 巳

この前の会報8第号に昭和41年5月ごろまでの数理学科5年の歩みについて書きましたが、本号ではその後の経過について報告しましょう。

1 教員の移動

中谷先生が本年3月停年でご退職になったことはご承知の通りで、32年の平野先生41年の小林先生について数専会に最もなじみの深い先生が去られたことは、まことに

淋しい限りです。中谷先生のことについては本号に特集されていますので、ここには省略します。

新しい先生としては、まず山本幸一先生が昨43年4月においでになりました。山本先生は昨年の夏の追分研修会で Flexagon について面白いお話をしてくださいましたので覚えておいでの方もあると思います。先生は昭和18年9月に東京大学の数学科を卒業され、九州大学の教授をなさっていましたが、南カリフォルニア大学、ウィスコンシン大学などの教授もなさって、42年の暮に帰国され、本学におちつかれたわけです。先生のご専門は整数論に関係のある組み合わせ理論 (combinatorial theory) という新しい分野です。

この4月からは雨宮一郎先生と静間良次先生が来てくださり、これで欠員が補充できたわけです。雨宮教授は、昭和22年3月に東京大学数学科を卒業、北海道大学助教授、東京理科大学教授、再び北大にもどられて教授を6年間なさり、その間カナダに2回客員教授として招かれ、位相解析では日本で代表的な学者の一人です。静間教授は昭和13年3月大阪大学の数学科を卒業、名古屋大学の助教授を経て、立命館大学の教授を11年間なさいました。位相幾何学ですぐれた仕事をなさっているほか、数学史や科学概論に関する著作もあり、また音楽や音楽史にも特別な造詣をもっておられます。

これらの新しい先生がたはすぐれた学者であるばかりでなく、いままでの先生がたと同じように東京女子大学にとって大へんによい先生であることは、まことに幸せなことと感謝しております。

助手では、昭和42年3月大久保京子さんが退職され、代りに松本智子さんに日立中研から移ってもらいましたが、この3月には橋詰昭子さんと武田(旧姓松本)智子さんの2人とも退職され、新卒の近藤葉子さんと、42年に数理学科を卒業され、ネブラスカ大学修士課程をこの1月に卒業された松井直子さんが新しく助手の仕事をなさっています。

現在の数理学科の教員は次のようになっています。大学としては昭和43年9月木村学長病気のため、宮本武之助先生が専任の文理学部長となり、44年1月木村先生ご退任、宮本先生が学長兼文理学部長となりましたが、44年8月宮本先生が学長専任となり、北村常夫教授(英文学)が学部長代行となりました。根岸さんは43年9月学生部副部長、44年7月から学生部長をなさっています。小林先生はひきつづき講師として文科系一般教育の数学を担当されています。なお高村さんは41年9月ドイツ留学から帰国され、昨年学位を授与されました。また名誉教授平野先生はこの4月に勲4等宝冠章を授章されましたことを附記しておきます。

解析学	教授	雨宮 一郎	統計数学	教授	小河原 正巳
	助教授	松原 稔	計画数学	講師	西野 吉次
	助教授	高村 多賀子	電子計算機	講師	山本 欣子
	講師	魚返 正	物理数学	助教授	黒星 瑩一
代数学	教授	山本 幸一		講師	小出 昭一郎
	講師	正田 建次郎	物理学*	教授	遠藤 真二
	講師	島田 公子		講師	武部 尚雄
幾何学	教授	静間 良次	科学史	講師	渡辺 正雄
	助教授	根岸 愛子	測量*	教授	中村 進
	講師	山ノ下 常与	数学科教育法	講師	渡辺 正八
	講師	笹尾 靖也			(*は数理学科以外の専任)

2 学生の移動

昭和42年以降の学生の移動は次のようになっています。学生定員は45人です。

現在1年次から4年次までの学生数はそれぞれ 43, 51, 42, 44 合計 180人です。

昭和44年3月までの卒業生の数は、数学専攻部 263, 数学科 263, 2年制数理科 144,

3年制数理科 279, 数理学科 222, 合計 1171 (うち約20人が逝去) となっています。

卒業生の卒業時の就職先は次の表のようで、その傾向は従来とほとんど同様です。

年	42	43	44
卒業数	30	35	50
就職先			
会社・銀行	19	21	27
民間研究所	4	4	6
大学の助手	3	5	8
国立研究所	1		
出版社			
大学院	1	1	5
その他の進学			
就職しないもの	2	4	4

年	42	43	44
3月卒業	30	35	50
志願者数	409	459	433
入学者数	42	47	43

3 数学図書の現状と数専会寄贈図書

数学研究室の図書の昭和44年5月末現在の状況は次のようになっています。この単行書の中には辞書類はふくまれていません。したがって、44年3月の卒業生が寄贈された25,000円で購入した辞書は含まれていませんが、平野先生が寄贈されたものや、その他個人的に寄贈されたものは含まれているわけです。なお中谷先生が図書費とし

単行書(冊数)

雑誌(種類)

	35年		44年			現在とっているもの (寄贈を含む)		バック・ナンバー だけのもの	
	7月末	5月末	7月末	5月末					
洋書	790	3,536			外国	42		20	
和書	1,127	1,456			国内	38		17	
計	1,917	4,992			計	80		37	

て寄贈してくださった22万円(このうち20万円は会計課に、2万円は数学研究室図書委員に預ってもらっています)ではまだ図書を購入しておりませんが、この紙面をかりて厚く御礼を申し上げたいと思います。

数専会は数理学科開設に当って多大の援助をしてくださいましたが、その後もひきつづいて募金やダンスパーティーその他の事業による収益金など、毎年寄贈をつづけてくださっていることを深く感謝いたします。昭和41年3月以後、数専会の募金で購入した図書(これも上の表に含まれていますが)は次の通りです。単行本全体の約19%、35年以後の増加数の約30%が数専会の寄贈によるものであることがわかります。なお大学の図書予算の多くの部分は雑誌の維持に、文部省の助成金は主としてバック・ナンバーの購入に当てています。

数専会寄贈図書

期 間	昭和41年3月まで	昭和41年4月から 昭和44年3月まで	昭和44年3月現在 までの合計
募金寄贈額	2,073,436 ^円	134,528 ^円	2,207,964 ^円
洋書	663冊 1,625,625	52冊 101,955	715冊 1,727,620
和書	261冊 145,950		261冊 145,950
雑誌	14種 115,680	2種 159,600	16種 275,280
製本	2種 6,800		2種 6,800
計	1,894,055	261,595	2,155,650
残 額	179,381		52,314

4 備品・設備

数学研究室には卓上自動計算機18台、電動計算機大小6台ありますが、これらも古くなったので、43年度にソニーの電動計算機1台を購入しました。また本年度には複写機1台を入れて活用しています。

なおこの6月には電子計算機導入のための助成金を文部省に申請しました。もしも相当額の助成があれば、来年度から大学全体としてのコンピューターのセンターが発足することになるでしょう。そうなったら専任の保守兼オペレーターとパートタイムのパンチャーとプログラマーをお願いしたいと考えています。

5 大学の現状と数理学科

ご承知のようにわが東京女子大学でも、学生が中教審答申・大学立法に反対して、5月30日の学生大会で、この法案が国会で採決されるまでということで、約1,200人中およそ800人の賛成を得て、翌31日からストライキに入りました。その数日前に、大多数の一致のもとに大学立法に対する反対声明を出していた教授会は、主として混乱をさけるため、さしあたり休講ということにしました。政治的ストライキには正当性は認め難いのですが、その後闘争委員会は闘争の目標を学内問題に関連させ、教授会に対する全学生集団の団交権と学生規定の白紙撤回（全面的改正）が実現することになりました。7月1日からは理事会に対する団交を要求して1号館を封鎖し、8月末現在までつづいています。この間、理事会は退去命令を出し、教授会も2度にわたって撤去要求をし、全学生に（学長は全父兄に）手紙で2度にわたり9月からの授業再開をよびかけ、一方大学運営上の改革草案を準備しています。

数理学科の学生は、しばしばわれわれ教授との話しあいを希望し、われわれもできるだけこれに応じて来ましたが、数学の学生たちは、概して隠微な考え方をしています。いわゆる安保体制のもとでの経済の高度生長にともなって各方面に現われている弊害や矛盾など、目を広く社会や国際問題にむけ、勿ばたのしあわせだけでなく、社会のしあわせに関心をもつべきは当然であって、自主的客観的にものごとを観察し、判断をし、行動する能力こそ勉学によって養うべきであるのに、その権利を放棄していることの矛盾は多くの学生が感じているようです。いわゆる過激な全共闘派学生は数においては一部分にすぎませんが、へたをするとこれらの学生に心情的に同調する学生がでてくる可能性のあるところに問題のむづかしさがあるようです。しかし9月からは授業を再開し、今後このようなことが起きないような学園にしてゆくよう、われわれも努力しています。

1号館封鎖は大学の機能をほとんど停止させていますが、数理4年生の就職は、5月中に手続きがはじまり、また求人が多いため完全な書類なしでも、希望者の70%が内定しています。大学院設置のための委員会が、この4月に再発足し、私はその委員長として、今秋に申請できるよう極力推進してきましたが、ストライキのため教授会にもちだす余裕がほとんどなく、またかりに教授会理事会で決定したとしても、事務機能封鎖のため書類を整えることができず、もはや時間切れの状態になったことはまことに残念です。しかしこの問題は大学改革の一環として46年度から設置できるよう

に努力するつもりです。

なお数理学科4年生の中に大学院進学希望者が数人いて、彼女らの強い期待に応じられなくて、気の毒なことをしました。彼女たちが将来の計画が立てられるように、一日も早く見通しをつけてやりたいと思っています。

最後に、この学園は現在の直接関係者のものだけではなく、同窓生全体のものでもあると思います。制度上では同窓会は評議員会、理事会を通して大学の経営に参加されているわけですが、母校の現状を心配されて、はげましや問い合わせの便りをくださる方々の少くないのも、卒業生と母校との強い精神的結びつきが感じられます。

この会報がみなさんの手にわたるころは、母校も大学本来の姿をとりもどし、新しい歩みをはじめていると思いますが、この波乱の中を正しく進んでゆけるようにお力ぞえをお願いします。
(1969. 8. 31)

—— 研究のしおり ——

練ようかんの官能検査

(7年) 中 屋 澄 子

追分の数学研修会で食品の官能検査が毎年の行事ようになって来た。何時も食べている食品なので、どれが本当においしいかためしてみたい気持もあるだろうし、前日の結果が翌日わかる。皆様熱心に検査して下さいるので検査するものにとっては大変有難いのである。さて今年は何を食べて頂くことにしようとする。

先ず東京で買って追分まで運ぶのだから重くなくて携帯に便利なもので検査に食器をあまり使わなくて処理の簡単なものがよい。昨年はチーズの対比較をしたので、今年練ようかんのテストを評点法ですることにした。

ようかんの中で「練ようかん」と表記してあるもの、1本200円から300円位のもの、と見当をつけて、先ず『とらや』をしらべたら1本800円、ケース入り380円というものもあるけれど、黒ようかん、夜の梅、ひき茶ようかん等でただ練ようかんとしたものがないのであきらめる。新宿のデパート（伊勢丹と小田急）で次の5品を購入した。

	重さ (容量)	値段 (1本) (100g)	
		円	円
ちとせ	290 ^g	250	86
駿河屋	330	225	68
栄太楼	400	220	55
中村屋	420	200	48
もとはし	420	230	55

(もとはし以外は容量表示があった。もとはしは実際に測った)
くじで イ(中村屋) ロ(駿河屋)
ハ(ちとせ) ニ(栄太楼)
ホ(もとはし)
と決める。(色はロが赤く、他は小豆の色をしている。特にイ、ハ、ニは色、かたさとも全く同じようでは区別がつかない程であった)

質問用紙は次のようである。

氏名

ここに5種類のようかんがあります。
この中一番おいしいと思うものに5、一番おいしくないと思うものに1。他は1, 2, 3, 4, 5の何れかをつけて下さい。食べる順序によっておいしさの変わることがありますからご注意下さい。

種類	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
評価					

1点から5点までの評点法であるが、例えばようかんの好きな人が5ばかりつけたり、逆にきらいな人が1ばかりつけたりするようなことなく、各人が最高5、最低1をつけるよう考えて書いたものである。また順序効果があるものなので、人によって順序を指定するとよいが今回はそんな余裕がないので、各人の注意をうながした。

i 番目の人の j 番目のようかんに対する評点から3を減じたものを x_{ij} とする。

$$x_{ij} = \mu + R_i + C_j + y_{ij} \quad \begin{cases} i=1, 2, \dots, r \\ j=1, 2, \dots, s \end{cases}$$

R_i はパネル効果 $\sum_i R_i = 0$ と仮定する。

C_j は銘柄効果 $\sum_j C_j = 0$ と仮定する。

y_{ij} は誤差で平均値0、分散 σ^2 の正規分布に従うと仮定する。検査の結果は次の通りである。 $r=18, s=5$

ようかん イ, ロ, ハ, ニ, ホ を A_1, A_2, A_3, A_4, A_5 パネルを C_1, C_2, \dots, C_{18} で表わす。

表

i \ j	A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	A ₅	T _i
C ₁	-2	0	2	2	2	4
C ₂	-1	-2	1	0	2	0
C ₃	-2	-2	1	2	0	-1
C ₄	2	-2	0	2	0	2
C ₅	1	-1	-2	0	2	0
C ₆	0	1	-1	-2	2	0
C ₇	2	-1	0	1	-2	0
C ₈	2	0	2	2	-2	4
C ₉	2	-1	0	-2	-2	-3
C ₁₀	0	-2	2	1	-1	0
C ₁₁	0	1	2	0	-2	1
C ₁₂	1	-2	0	-1	2	0
C ₁₃	0	-2	0	0	2	0
C ₁₄	0	-2	-1	2	1	0
C ₁₅	2	2	-2	2	2	6
C ₁₆	2	-1	0	-2	1	0
C ₁₇	2	1	0	-2	0	1
C ₁₈	1	1	-2	0	2	2
T _j	12	-12	2	5	9	16=T
$\bar{x}_{.j}$	0.67	-0.67	0.11	0.28	0.5	
順位	1	5	4	3	2	

$$T_i = \sum_j x_{ij}, \quad T_j = \sum_i x_{ij}, \quad T = \sum_i \sum_j x_{ij}, \quad \bar{x}_{.j} = \sum_i x_{ij}/r$$

順位は1位 中村屋, 2位 もとはし, 3位 栄太楼, 4位 ちとせ, 5位 駿河屋であった。(栄太楼はようかん、小豆と書いてあり、他は単に練ようかん、本練ようかんとして書いてあったが、駿河屋だけは赤色で白小豆を、他は普通の小豆を使ったものと思われ、駿河屋だけ異質であつたらしいこと、また食品の色素についての心理的なものも働いているのではないと思われる)

帰無仮説を $R_1=R_2=\dots=R_{18}, C_1=C_2=\dots=C_5$ とし、パネル間、銘柄間に差があるか、二元配置の分散分析表を作ってみる。

$$S_R = \left(\sum_{i=1}^r T_{i\cdot}^2 \right) / s - \frac{T^2}{Vs} = \frac{88}{5} - \frac{256}{90} = 14.76$$

$$S_C = \left(\sum_{j=1}^s T_{\cdot j}^2 \right) / r - \frac{T^2}{rs} = \frac{398}{18} - \frac{256}{90} = 19.27$$

$$S = \sum_{i=1}^r \sum_{j=1}^s x_{ij}^2 - \frac{T^2}{rs} = 206 - 2.84 = 203.16$$

$$S_E = S - S_R - S_C = 203.16 - 14.76 - 19.27 = 169.13$$

分散分析表

要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比
パネル間	14.76	17	0.87	0.35
銘柄間	19.27	4	4.82	1.94
誤差	169.13	68	2.49	
総計	203.16	89		

$$F_{68}^{17} (0.05) = 2.27 > 0.35$$

$$F_{68}^4 (0.05) = 3.63 > 1.94$$

有意水準5%でパネル間、銘柄間に全体として差があるとはいえない。

$F_{68}^4 (0.10) = 2.03 > 1.94$ 銘柄間には有意水準10%にするとかなり近い値にはなるが、まあ何を買っても大した違いはないらしい。値段とも相談してお好きなのをお買い下さい。

次に1位の中村屋と5位の駿河屋の差について考える。

(1) 各データに対応があるので差 $y_i = x_{i1} - x_{i2}$ をとる。

$$i = 1, 2, \dots, n \quad n = 18$$

帰無仮説 $H_0 : m = 0$

対立仮説 $H_a : m \neq 0$

$$\bar{y} = \sum_{i=1}^n y_i / n = \frac{4}{3} = 1.33$$

$$s^2 = \sum_{i=1}^n y_i^2 - \bar{y}^2 = \frac{80}{18} - \frac{16}{9} = \frac{8}{3} = 2.67$$

$$t = \frac{\sqrt{n-1} \bar{y}}{S} = \frac{\sqrt{17} \times 1.33}{1.63} = 3.37$$

t は自由度 $n - 1 = 17$ の t 分布に従う。

$$t(17, 0.01) = 2.90 \quad t(17, 0.05) = 2.01$$

$t > t(17, 0.01)$ であるから有意水準1%で差があると考えられる。

(2) 二組のデータに対応がないときは平均値の差の検定を用いる。

$$n_1 = n_2 = 18$$

帰無仮説 $H_0 : m_1 = m_2$

対立仮説 $H_a : m_1 \neq m_2$

$$\bar{x}_1 = 0.67 \quad \bar{x}_2 = -0.67$$

$$s_1^2 = \sum_{i=1}^{n_1} x_{i1}^2 / n_1 - \bar{x}_1^2 = 1.78 \quad s_2^2 = \sum_{i=1}^{n_2} x_{i2}^2 / n_2 - \bar{x}_2^2 = 1.78$$

($s_1 = s_2$ となるがこれは偶然の一致である)

$$t = \frac{\bar{x}_1 - \bar{x}_2}{\sqrt{\frac{n_1 s_1^2 + n_2 s_2^2}{n_1 + n_2}}} = \sqrt{\frac{n_1 n_2 (n_1 + n_2 - 2)}{n_1 + n_2}} \quad \text{は自由度 } n_1 + n_2 - 2 \text{ の}$$

t 分布に従う。 $n_1 = n_2, s_1 = s_2$ であるから

$$t = \frac{\sqrt{n_1 - 1} (\bar{x}_1 - \bar{x}_2)}{\sqrt{2 S_1^2}} = \frac{\sqrt{17} (0.67 + 0.67)}{\sqrt{2 \times 1.76}} = 2.91$$

自由度 $n_1 + n_2 - 2 = 34$ t 表でひくと

$$t(34, 0.01) = 2.73$$

$t > t(34, 0.01)$ であるから、有意水準1%で差があると考えられる。

以上二つの方法は、普通データに対応があるときは(1)を用いるが、相関がないときは(2)を用いてもよい。検定は自由度の大きい方が検出力が大きい。(1)の自由度は $n - 1 = 17$ (2)の自由度は $n_1 + n_2 - 2 = 34$ であるから、相関のないときは(2)を用いた方がよい。

次に x_1 と x_2 に相関があるかしらべてみる。共分散を s_{12} 、相関係数を r_{12} とする。

$$s_{12} = \sum_{i=1}^n x_{i1} x_{i2} - \bar{x}_1 \cdot \bar{x}_2 = 0 + \frac{4}{9} = 0.44$$

$$r_{12} = \frac{S_{12}}{S_1 S_2} = \frac{0.44}{1.78} = 0.25$$

母集団相関係数が0のとき、

$$t = \frac{r_{12} \sqrt{n-2}}{\sqrt{1-r_{12}^2}} \quad \text{とおけば、} t \text{ は自由度 } n-2 \text{ の } t \text{ 分布に従う。}$$

$$t = \frac{0.25 \times \sqrt{16}}{\sqrt{1-0.25^2}} = 1.03 \quad \text{自由度 } n-2 = 16$$

$$t(16, 0.05) = 2.12$$

$t < t(16, 0.05)$ であるから有意水準5%で相関がないと考えられる。また $t(16, 0.30) = 1.07$ で、 $t < t(16, 0.30)$ であるから有意水準30%でも相関がないと考えてよい。従って(2)の方法を用いた方がよい。

この計算の前半は高瀬幸子様(昭14)に協力して頂きました。またこの実験では研修会参加者の方々に、パネルとして、また実験の準備に御協力頂きました。

コンピュータに近づく3つの道

(23年) 山 本 欣 子

コンピュータに近づくには三つの道がある。

その一つは、どんな仕事に、どのように使われているかという応用の面から入る方法である。新聞、雑誌をはじめ一般にマスコミが取り上げるのは、こういう面の話が多い。話その物がアトラクティブになり得るし、こまかいことに触れなくてもよいから、取り上げ易い。コンピュータの偉力を表現するには最もいい方法である。しかし応々にして、その華やかな成果だけが、あるいは神秘的な能力だけが強調される結果、その陰にどんな舞台裏の仕事が必要なのかとか、コンピュータの本当の能力とは、どの程度のものなのか、といった評価、判断が忘れられ勝ちになり、一般の人々をコンピュータ過信におち入らせる弊害がある。

さて、二番目は、コンピュータの機構を勉強する方法である。まず2進法から始めて、加えたり引いたり、どういう原理で行われるのだろうか。記憶というのはどういう現象か、プリンターの機構はどうなっているのだろうか、といったコンピュータの道具立て、そのもののお話である。

話が一寸横道にそれるが、我々、理工科系の出身者は応々にして、原理原則がわかって、納得しないと物事を理解しないという性癖を持っている。だから語学の勉強などでも、文法的にどうしても解釈のつかない様なものを、それは、そういう言い廻しの習慣なのだから、うるさい事を言わずにそのまま憶えろ、といわれても拒絶反応を起すことがある。

こういう面からみると、我々にとってはこの2番目の方法から、コンピュータを勉強するのが、もっとも性に合っているかの様に見える。

ところが、実際にはなかなかそうはいかない。それには色々理由がある。

コンピュータの機構そのものをハードウェア(Hardware)という。ハードウェアの機構を一通り知る事は、そう簡単ではない。

そして、若し一通り勉強したとしても、実際に、ある問題をコンピュータを使って処理してみようと思っても、ハードウェアの知識だけでは、何をどうやればよいかという手がかりが殆んどない。勿論、コンピュータ技術者のいろいろ専門分野によってどの程度までハードウェアを知らなければならないかは、それぞれ違いがあるわけだが、一般の人で、コンピュータを使う立場の人ならば、この2番目の方法からコンピュータを学ぶのは、遠廻り過ぎるという事になる。テレビを見るのに、どういう原理で、ブラウン管に映像が映るのだろうかという事を知らなくても充分テレビを楽しむ事ができるわけだし、バスが何故走るかという事体のメカニズムを知らなくても、目的地に行くにはどういう方法でどこから乗車して、いくら払えば用が足りるかという事だけを知っていればよい。コンピュータでも全く同じで、どうすれば、自分の仕事をコンピュータがやってくれるかを知っていさえすればよいというわけだ。

さて、そこで3番目、どうすれば、ある具体的な問題をコンピュータが処理してくれるかという、いわゆるプログラミングの話となる。コンピュータは単なる機械にすぎないから自発的意志は何も持たない。どんな簡単な仕事をやらせるにしても、予めその手順を人間が細かく組立てて与えてやらなければならない。その手順書がプログラムであり、プログラムを作ることをプログラミング(programming)という。つまりプログラムなしには、どんな仕事もできない、というのがコンピュータの宿命だということである。

以上、三通りの方法のうち、どの道からコンピュータに近づくかは、その人の目的にもよるが、最も手っとり早く、コンピュータを身近なものにするには最後のプログラミングから入るのが近道らしい。

毎週日曜日、NHKの教育テレビで、コンピュータ講座が放送されている。あのテキストが100万部売れたというのが話題になっているが、あの講座のねらいも、プログラミングそのものというより、プログラミングを通して、コンピュータを理解させるという取り上げ方だと推察する。

1 習うよりなれよ、プログラミングのこつ

ある人がスキーを始めた。彼は理論派であったから先づ専門書を買って文献調査ということになった。右に曲る時は、左に曲る時は、重心のかけ方はと、スキー理論をがっちり頭にとたたき込んで、さてスキーをかついで、スキー場へやって来た。

ところがあの長い下駄をはいてひとたび雪の上に立ってみると、とてもとても理論通りになど行く筈がない。スキーをやった事のある人なら誰しも経験済みのことである。

さて、プログラミングも何となくそれと似たところがある。最近、入門書も沢山出廻っているから、その気になれば、いくらでも勉強することはできる。ところが、本を読んだり、人の話を聞いただけでは、どうもピツパリこないところがある。それを解決するには、どんな簡単なものでもよいから、自分の問題を自分でプログラムを作り、実際にコンピュータに実行させてみるのが一番よいと言われる。

始めて自分の指令通り、コンピュータが働いて、正しい結果を出した時は、何とも言えず嬉しいものだという。勿論、目くらめっぽうにやっても仕方がないが、スキーでもよい指導者がいて適当なアドバイスをしてくれると、より早く上達するように、プログラミングにもよき指導者は必要である。一見簡単そうに見えて、仲々思うようにゆかないのがプログラミングの特長である。プログラムというものは、計算機にも通ずる特別な言葉で、仕事の処理手順を細かく組み立てるのだが、コンピュータは人間のほんの一寸したミスでも決して容赦しない冷酷無比の機械であるから、一寸油断をすると、さんざんコンピュータに翻弄されることになる。これだけは自分で経験してみないとわからないのだが、人間の思考論理のあいまいさを、いやという程反省させられるし、人間というものは、こんなにもウカツな動物であったのかとつくづく感心させられる。

したがってこういう仕事を本職とする人間は、よっぽど好きでないと務まらないということらしい。

2 最近のテレビで思うこと

近頃のテレビには随分コンピュータが顔を出す。娯楽番組の筆頭としてフジテレビの“夜のヒットスタジオ”というのがある。番組の中で、出演者の誰れかの恋人エラビをコンピュータにさせるわけだが、しかるべき専門家が、人間の性格分析に基いて作ったシステムであろうからインチキだとは思わないが、一寸気になることがある。

あのシステムでは予め200人の芸能人のデータが記憶されているそうだが、何時でも全員のデータを使っているのだろうか、という疑問である。いくらデータの数をしばっても、その中から誰かを選び出すわけだから、極端な場合、その日の出演者のデータだけにしなれば、同じ出演者の誰れかが相手として選ばれることになる。偶然の一致の度が過ぎると、少々そんな疑いも湧いてくる。しかしまあ娯楽番組のことでもあるし、たとえそれに近いカラクリがあったとしても別にどうということはない。それよりも我々にとっては、たまにコンピュータやディスプレイが故障する方が興味がある。翌日早速話題になる。ナマ放送の悲しさ、出演者は冷汗ものだろうが、「やっぱりねえ」と、何となくほほえましい気になる。

さて、もう一つのテレビの話題は、例のアポロ11号である。こっちの方は、うっかりコンピュータが故障でもしたら一大事というしろものである。

あの成功をコンピュータの勝利とたたえる人がある。また、コンピュータを完全に使いこなしたシステム技術の成果とたたえる人もある。いづれにしてもコンピュータなしにはあの成果は得られなかったことは事実であろう。あの数日、夜も昼もテレビにかじりついて、睡眠不足でボンヤリしていた人も少なくなかったようだが、NHKがディスプレイ装置を使って、月着陸、離陸の様子を表示したのはさすがだった。ところで、あの表示を、実際の月着陸船からのデータによって、現実の動きをそのまま表現したものと錯覚した人が、かなりいたのではないかと思う。もっとも、驚くべき精確さで、予定通り実行されたわけだから、そう錯覚しても不思議ではないが、実際には着陸船内のコンピュータと、ヒューストン基地の5台の大型コンピュータとの間では終始壮烈なデータのやりとりが行われていたであろうが、日本のNHKのコンピュータには、何らデータが送られて来たわけではない。あれは予め予定経路にしたがって、着陸船の動きを表示するディスプレイ内のプログラムが作られていたにすぎないのである。

だから、着陸船が予定通り行動してくれたのが一番有難かったのはNHKだろう、などと陰口をたたいた人もいた。しかし、そうとは知りつつ何をかくそう、私も、ディスプレイ上の着陸船の順調な動きに安堵しながら、テレビにかじりついて一人である。

ところで、すでに周知の通り、現実には月着陸時にかなりの危険があったそうである。船内のコンピュータが、見さかいなく不用のデータもどンドン食べてしまって、記憶装置が今にもパンクしそうになったそうである。如何にもコンピュータらしい、何とも御愛嬌である。しかし何とんでも我々の心を一番打ったのは、着陸寸前、アームストロング船長はコンピュータの力を借りず、自ら操縦桿を握り、クレータを越え、安全な場所に着陸船を誘導し、無事着陸したということである。最も重要なところ、それは矢張り人力で行われた。人間の判断力、この素晴らしきものに栄光あれ!!



ア メ リ カ 便 り

(22年) 玉 河 喜 美 子

はじめは2年位のもりでまいりましたのにいつの間にかアメリカでの生活も大分長くなってしまいました。その間全く子供達の世話、家事、時々のお客様(主人の勤めています教室関係の方々をおよびしてのパーティやおよばれやら、それが学期中はなかなか忙しい事の一つです。又日本からいらっしゃる方も時々あります)等に追われて家庭に入りきりの毎日ですので、私の見聞の範囲はごく狭い限られたものである事をはじめにお断りしておきたいと思います。

私共の住んでいますのはニューヨークから東北約120キロメートル程離れたニューヘヴンという市(人口約18万)のその郊外にあるノースヘヴン(人口約2万足らず)という小さな町です。この土地に暮らして約6年になりますが、ニューヘヴンにはイエール大学がある故か、外国人が多く日本人もかなりおります。土地の人も外国人に馴れていますし私共にとってアメリカの中では住み易い土地の一つではないかと思われます。

今世界の各地で問題となっています大学の紛争もイエール大学の場合はごく一部で済み、卒業式も5月の終りに予定通り無事に済み、学生は各地に散ってしまい、今は長い夏休みがそろそろ終りに近づいたところですが、コロンビア、コーネル、シカゴ、ハーバートなどで相ついで紛争がひどかったことは新聞等のニュースで御存じかと思いますが、今迄のところイエール大学が無事で居りますのは、一つの原因として大学はじまって以来のカレッジ制度があることが考えられます。カレッジというのはイエール大学に12あり、それぞれ独立した建物になって学生の寄宿舎になっており、マスターのファミリーが一緒に住んでいます。イエールのアンダー・グラデュエイトの学生は入学するとどこかのカレッジに必ず入る事になっています。つまり日本でいう全寮制度とでも云えましょうか。マスターは普通は教授からえられますが、その夫婦は学生の両親みたいのもので、いろいろと面倒をみ、相談にのります。教授達もパーマネントの職にある人達はそれぞれどこかのカレッジに属し、週に一度はどのカレッジでもそれに属している教授と学生が会食をする機会があります。その外音楽会、講演会、クリスマス等カレッジによって時々催しをします。もっともそれは教授にとって決して義務ではありませんので、その活動に熱心な人も無関心な人もあります。とにかくそういう制度があって、教授と学生とのコミュニケーションが他の大学に比べ

てよいのではないかと思われるのです。

女子との共学はイエールではいよいよこの秋からはじまります。今そのための設備を整えるのに大童の様です。女子の学生の入学を認めないと、男子のよい学生が入らないのも共学になる大きな理由という事です。勿論大学院は前から女子が入学が出来たのですが、アンダー・グラデュエイトが共学になる訳で、それは伝統あるカレッジに女子が入る事を意味するのでやはり大きい変化といえましょう。一方伝統ある女子大(バサール、スミスなど)が男子との共学になる傾向にあるそうです。

今大学院の学生の間で一番問題となっておりますのは、何と云っても徴兵の事と思えます。1968年の夏から大学院の学生に対する徴兵免除の特権がなくなり、イエールの数学教室の学生ももう7、8人召集されました。昔の日本と違って幹部候補生になれるという特権はありません。一兵卒として訓練を受ければすぐベトナムの最前線にやられるかも知れませんので、学生の気持にはとても非壮なものがある様で、そういう将来に対する不安と云ったものが、今のアメリカの大学の紛争の一つの原因となっているのではないかと思います。数学などは大学を卒業して続いて勉強していて、若い中によい論文が書ける事が多いものですから、その様な大切な時期に2年と云うブランクはたとえ無事に帰れたにしても、やはり将来仕事の上で、ハンディキャップになるのではないかと同情に堪えません。私共も一番上の男の子がもう満12才になりますので、そういう問題に直面する事もそう遠い将来の事でなく、心から平和な世界の来ますことを祈らずにはおられません。

ベトナム戦争その他の影響で、アメリカのインフレーションも去年あたりからひどくなり、税金、日常の食物、衣類、雑貨何でも高くなり、家計にもヒシヒシとひびいて来ます。周囲のアメリカ人もこう物価が上ってはやりきれないとこぼしているのを聞きます。人の賃金がどんどんあがること、それでいてなかなかよい人がいない事も日本と同じらしいです。公立小学校もこの頃は予算が足りず、スクールバスとかホットランチのプログラムをカットする等の問題が、そこそこで起っているのを聞きますが、このノース・ヘヴンではあまりさし迫った問題は起っておりません。スクールバスは家のすぐ傍まで来てくれますし、1クラスの人数も25人位で(それでも此の頃は生徒の数がふえて、30人近くになる事があり、これでは困ると先生方はこぼして居られました)クラスのルームも広く下級学年では、お手洗いが室の一つづつついていていつ行ってもよい事になっているのには感心しました。宿題は小学校3年位迄は殆どなく教科書も持って帰りません。家に帰ると勉強は忘れて寒い冬でも(冬の中中は日中でも温度が摂氏0度以下の事がありますが、そんな時でも)元気よく戸外で遊んでいます。4年生位からは算数の宿題とか、リポートを書かされたりして算数の本をかかえて帰って来ますが、能力のある子でしたら学校で暇をみて片づけてしまう事も出来る程度です。

すべての学校の新学期は9月ですので、夏休みは宿題というものは全然なく、2ヶ月半位の長い間が専ら体をきたえる事に使われ、家族で遠い親類をたづねたり、旅行をしたり、キャンプをしたり、子供達にとって楽しい時です。ハイスクールから上の人達にとっては、学資を得るためにまとまったアルバイトをする時でもあります。子供のためのキャンプ（林間学校とでも云えましょうか）もいろいろあり、満10才位からは泊るキャンプも沢山あります。キャンプ等に行かれない子のためには夏休みの間も学校の講堂、運動場を開放し、組織立った遊びとか、ベース・ボール等をさせるリクリエーション・プログラムもあります。そう云うのは無料で、その学校へ行っている子でしたら誰でも参加出来ます。ハイスクールではサマースクールもあり、タイプライターとか語学等の講習が受けられます。今年家の子供達は一番上の子は6週間泊りがけでミュージックキャンプに行き、下の4人の子はそれぞれ昼間のキャンプに4週間づつ行かせました。皆それぞれに楽しかった様です。又水泳のレッスンを受け皆とても泳ぎが上手になり、一番下の4才の子も1メートル位犬かき泳げる様になりました。男の子が1人で着更えることや、1人でさっさと急な山道でも元気よく歩く事もキャンプで学んだ事の一つです。ミュージックキャンプは、10才から18才位迄の男の子、女の子一緒に25人位の生徒のキャンプで、大抵2つづつ楽器を習っています。皆でいろいろの組合せで新しい曲に取組み、合わせてゆく事がとても楽しかったらしく、食事とか泊るところなどはあまり上等でなくても、もっと長くてもよい位だった様です。最後の演奏会も少しの間にまとめたにしてはとてもすばらしい出来でした。子供達にそれぞれ才能はあるにしても、そこ迄生徒達をひっぱって行った先生方の力と云うか、情熱はたいしたものと思いました。下の子供達の昼間のキャンプは大体10人位のグループに分れて行動し、カウンセラーと云われるリーダーが1人づつついて、朝の9時頃から夕方4時まで時間を区切って、ゲーム、ベースボール、水泳、手芸工作等をやらせるのですが、そのリーダーは高校から大学位の人で、1、2年の講習（年齢により異なる）を受けてなります。しっかりしたよい人達が多く、これも大事な夏のアルバイトの一つになっています。又ボランティアと云って無料で奉仕している人達もあります。アルバイトと云えば夏休みの終りに、家族でニューハンプシャーにあるマウント・ワシントンという山に遊びに行った時5百年も前からある観光用の蒸気機関車に乗り、頂上迄往復したのですが、その機関車の運転の助手をしてすすだらけになって真黒な顔をして働いていた人がハーバートの学生で、なる程説明のキビキビして上手なもの道理と感じ入った事でした。

雑誌等に紹介される特殊な人達の他にアメリカの若い人達の中には、堅実な、じみな道を歩いている人達も沢山あるという事を、日本の方達に分って頂きたいと思います。

(1969. 9.)

ベ テ ラ ン

(20年) 石 川 英

卒業して24年にもなると「教専卒」などと云われると面映ゆくなる。

家事や育児の事になれば経験の功で、主人の会社の若い人達の相談にのったり、助言を与えたり出来るが、わが子供達の数学の先生となるには実力が伴わない。

高校の娘に数学の問題をきかされると、教科書のはじめから読み記憶をよび戻さなければならぬ。だから「考えておくわ」と時間をもらうことにする。昨年私が1時間考えて解けなかった問題を、丁度訪ねてこられた飯井さん（22年数学科）が10分位で解かれたので、さすがベテランだと感心した。

ところが算数や、中学の数学になれば私もベテランに入るのはないかと思う。

小学校5年の長男の算数を教える時は、5番目の子供なので、どんな問題をもってこれようか、図解も堂にいて、わかりやすく教えられる。

中学の数学も同様、3女（中3）、4女（中1）となれば、問題を終りまできかない中に、大体のかたちがわかってしまう。だから長女は、「私の時は時間ばかりとられて、割が悪い」と云う。

そのかわり長女の家庭科の宿題の相談になると、長女が1日かかりで仕上げる1週間の献立表やカロリー計算を1時間でつくる。これもベテランにはいれるかと思う。

卒業後20数年、皆様はそれぞれの立場で活躍していらっしゃる。私も現在おかれていた立場で、常に考え、努力して前進してゆきたいと心している。

卒 業 後 の こ と

(42年) 亀 岡 純 子

私達が大学を卒業してから2年と5ヶ月余り過ぎました。まだまだ学生気分がぬけきれないうちにいつのまにかという感じがいたします。現在、仕事に油がのってきてはりきっている人、結婚するべく準備中の人、結婚して主婦業に専念する人、可愛い子供を抱えて奮闘する人など様々です。

卒業時、故郷に帰った人が7人で、他の23人は在京でしたので月1回集りましょうということになりました。場所は新宿の某喫茶店、時間は仕事が終わ次第ということでした。多い時は15人位が集ってずらりと並び、まわりの雰囲気調和しないなどと

いうことは全く気にせず、独自の雰囲気をかもし出していました。ただなんとなくおしゃべりをしたり、又、仕事のこと、結婚のことなど夜遅くまで話しました。でもそれぞれ仕事が忙しくなり1人、2人と結婚していったりして、だんだん心細くなり行ってみたら1人だったということで後で文句を言うということも出てくるようになってしまいました。就職したばかりの仕事になれない頃は、大学時代の友達に会うことによってホッと一息つくという意味で出席率も良かったのでしょう。集まらなくても良いということはむしろ喜ぶべきことなのかもしれません。これとは別に小河原先生をお迎えしての全体のクラス会を2回開き、地方からも出て来て楽しい1日を過ごしました。

私自身は1年半程電子計算機に向い合い、その後結婚して家庭に入り、数学とはあまり縁のない生活を送っております。でもまた5、6年たって(10年、20年後かもしれないが)月1回のクラス会を半年に1回でも良いからもちたいと思うようになるのではないかしら、そしてその時に再び数学の本を開いてみたいという気持ちになるのではないかしらと試してみたり、期待してみたりしております。

報 告

研 究 部

昭和31年10月2日、初めての研究会を数学研究室で開いてからちょうど13年、今日昭和44年10月2日この報告をかいています。これだけ長い間続いたのは、御指導下さいました先生方、お世話下さった各責任者の方達、そして集ってたゆまず勉強を続けて来られた方たち全体のおかげだとただただ感謝にたえません。始めは先ず続けることを目標に、そしてその中には何か単位のとれるようなものにと夢ももっていたのですが、なかなか実現しません、でも最近昼間開かれる研究会は人数がふえて、何となく力強いものを感じています。夢を捨てず希望をもってこれから先もこの研究会を育てて行きたいと思ひます、どうか皆様の御協力をお願いいたします。

また追分寮の夏季研究会は、今年で第8回を終えました。以下各研究部のくわしい報告を書いて頂きます。
(中屋澄子)

▶ 読書グループ (中谷先生)

読書グループ、相変らず細々とつないで居ります。およそ12~17名位集まります。形だけは当番の人が読んできて会の進行をすることになってはいますが、これはととのったものではないので、どなたでも気軽に入れます。

昨年は中谷先生の御病氣中、リーダーなしでやりましたので進みがおそく、1年かかって宮本先生の線形代数入門(東京図書)をよみ、現在、牧野都治著「OR入門」(数学ライブラリー、森北出版)のIの第3章を終ったところです。会費200円です。場所がまだはっきりしませんが御希望の方は、山本敦子さん(電・954-0352)におたずね下さい。
(川喜田弘子)

▶ 微分方程式ゼミ (高村先生)

高校数学の復習を終えてから中谷先生にお願いして、月2回水曜の午前中を研究会にして次の本をよみました。

1. 新しい数学(アドラー著)
2. 記号論理学とその応用(石谷茂著)
3. 位相への入門(菅原正博著)

1、2はわりによさしく節ごとに問題等があり、皆巻末の解答を参考にしながら全頁全問題を完全にやり終えました。

3は抽象的なところが多く、私達の単純な頭では理解しにくいところもありましたが、先生にお講義していただいて距離空間のところまですみました。先生の御熱心なお講義におこたえする程皆勉強しなかったことを後悔しておりますが、位相という概念をわずかつかむことは出来たという感じです。

四月から中谷先生の御都合がわるくなったので、高村先生にお願いすることになって微分方程式をはじめました。「新しい数学へのアプローチの微分方程式」(石原繁著)を使っております。一回に10頁位2人が当番になり責任をもって読んできて、その時間の司会に当たります。皆の解らないところは先生に説明していただくという方法です。当番でない人も大抵全部目をともし問題もやってきているので、今のところスムーズに進んで、本も半分程すみました。今まで何冊かの本をやりましたが、皆の一致した意見は、

1. あまりむずかしくないこと。
2. 適当な練習問題があること。
3. 練習問題には解答がついていること。

これからもこの様な教科書を見つけて、誰もが無理なく楽しく、地味に長く研究会をつづけ度い考えでおります。お時間の都合のつく方でしたらどうぞ気楽に御参加下さいますようお願いいたします。
(吉利花枝、電・0422-22-6080)

▶ 解析ゼミ (西宮先生)

西宮先生のご指導のもとに、月2回先生のお宅で行なっております。昨年4月から読んでおりました「位相数学」(河田敬義, 共立出版)が今年6月で終り、7月から「函数解析」(竹之内脩, 朝倉書店)を始めました。これには別巻に、「演習」がありますので、それを並用しております。同時に前半の30~40分を割いて、「統計」(西宮範, 広川書店)を読むことにしましたが、函数解析の方を主としてゆく予定です。

毎年春の“おしらせ”のたびに、新しい方の参加を期待しながら、この2、3年メンバーが変わりません。1冊を1年あるいは2年がかりというスローペースですが、関心のおありの方は、是非覗いてみて下さい。何時でも大歓迎致します。

原則として第1、3木曜日午後6時から8時半頃まで。場所は、国電田端駅からバス5分、またはお茶の水駅からバス15分のところ。 (高宮弘子, 電・303-2924)

▶ 電子計算機に関連した数学理論 (根岸先生を中心に)

毎月第1、第3木曜日の夜6時から8時半頃までお菓子をつまみながら勉強しております。と言いたいところですが、皆様御存知の様に女子大の紛争が長びいており、学生委員という大役を引受けておられる根岸先生が、学生との交渉やら教授会やらで連日お忙しく、6、7月頃から情勢待ちという形でお休みしております。9月になったらの願いもむなしく、まだストが続いている様子です。

昨年4月から高須達著「論理設計概論」を読んでおります。現在179頁あたりですので、今のうちに御勉強なさってどうぞ御参加下さい。ストが終れば、研究会も始まります。お待ちいたしております。 (松下淑子)

▶ 統計ゼミ (小河原先生)

Thomas L. Seaty の「Mathematical Method of Operations Research」は半分くらい進んだところで官能検査の勉強を始めました。論文など少し読み、次にH.A. David の「The Method of Paired Comparisons」を読み終りました。今年の4月から官能検査は一応やめて N. U. Prabhu の「Stochastic Process; Basic Theory and its Applications」を読んでいます。やっとまだ本論に入ったところですからどなたでもお入り下さい、毎月第2、第4木曜6時から数学演習室でして居ります。(中屋澄子)

▶ 追分研究会

第1回~第4回は8号でお知らせいたしましたから第5回からの報告をいたします。第5回(41. 8. 17~19) 参加者36名

Semi-Markov Process 小河原先生

数学教育に関する諸問題 中谷先生

位相幾何学入門 根岸先生

第6回(42. 8. 17~19) 参加者54名

複素数とその初等幾何学的応用 西宮先生

念力は検定できるか(二項確率の推測の問題) 小河原先生

女子大入試問題について 中谷先生

ジャガ芋の種類と料理法についての官能検査 上田・中屋

第7回(43. 8. 17~19) 参加者49名

Flexagon について 山本幸一先生

チーズの嗜好テスト(一対比較法による) 中屋・高瀬・矢矧

民法の話 人見

第8回(44. 8. 17~19) 参加者39名

位相解析における半群の理論 高村先生

煉羊羹の官能テストについて 中屋・高瀬

大学のこのごろ 小河原先生・中村先生

以上、研修会の項目をならべて書きますと、大変むずかしい、かたくなるしい会のようにはみえますが、内容はまったく反対で、卒業後、数学の勉強をしていない家庭人でも、たのしく参加できる雰囲気です。むしろ数学研修会という名称を、かえた方がよいという声が出てくるくらいです。しかし数学の勉強だけを目的とする会ならば、他に沢山の研究会があり、自分の力に応じ、目的に合致した会に参加する方が、ずっと効果的でしょう。

追分研究会には、一般の数学研究会では求められない数専会独自の目的があると思います。もっとも、それは、はじめにあったものではなく、回を重ねていくうちに、みんなが作りあげていったものかもしれませんが、この期間は、参加者の年代を忘れさせ、みんな同じ学生時代にかえり、先生方に甘え、友と親しく語りあえる、ほのぼのとした喜びを味わうことができます。この頃では、ご主人や、お子さんづれで参加される方も多く、家族ぐるみの憩の研修会でもあります。会長中屋さんは、第10回迄は続けたいと云われています。きっと第9回も来年8月17日~19日にひらかれることでしょう。今までに参加された方は、来年もまた。まだ参加されたことのない方は、来年こそ。どうぞこの日を予定して新年度の計画をたてて下さい。この会のあいことばは『来年もまた8月17日に追分であいましょう』。(池野和歌子)

厚生部

主として家庭教師、中高の講師のお世話をしています。

- (1) 求職希望の方はカードに記入の上登録して下さい。(御希望の方にカードを差し上げます)
- (2) 求人希望の方は御連絡下さい。カードの中から適当な方を選んでお世話します。
- (3) まとまりましたら1ヶ月の収入の1割を1回だけ、就職者から手数料として頂きます。かなりの金額が集まりましたら数専会の会計に繰り入れます。

最近中学・高校とも学級減のため講師の求人が少く、また家庭教師の求人も少いので、厚生部はあまり活動して居りません。どうぞ皆さま御利用下さい。

なお厚生部では家庭教師の謝礼の金額について聞かれることがありますので、幹事会にかけて皆さまの御意見を伺い、大たい週1回で月6,000円、週2回で月1万円を一応の標準として印刷物を作っております。御自分では言いにくい場合もあると思いますので、どうか御利用下さい、御希望の方に差し上げます。

〔附記〕 前任の片岡ヒサ様御病気のため臨時にこの仕事を引き継いで居ります。研究部などの仕事で手一ぱいなので、どなたかこの仕事をお引き受け下さる方はございませんか。
(中屋澄子)

S・S会報告

昭和34年数理科を4年制にするための募金委員会でダンス・パーティーを開き、その後募金委員会の解散後有志の会として、第7回までのことは前会報で御報告いたしました。このパーティーも一部の方には喜んで頂き、また少しずつでも数学図書費が寄附できますので一生けんめい続けて来たのですが、何分菅沼さんとその他4、5人の少数の方達の方でやっとさきえていることと、諸物価が高くなり、経費がかかる割に利益が少く、わずかの寄附しか出来ませんので、このまま続けて行くのが困難になって参りました。どなたか若い方が引き継いで下さったらと願って居りましたが、その様な方も現われず、私たちもせっかく始めたものですから10回までは続けようがんばって来たわけです。

43年11月16日、第10回を三会堂ビルで開き、それを最後として、このS・S会は一応解散いたしました。もしどなたか今からでもやって下さるならば出来る限りお手伝いいたします。ただ残されたのは数学図書費を今後どのようにお手伝いしようかという問題で、数専会の大きな仕事の一つになると思います。

回	年月日	場 所	寄附した金額(円)
8	41.12. 4	都道府県会館	28,000
9	42.11.25	三会堂ビル	21,400
10	43.11.16	三会堂ビル	30,000

(中屋澄子)

数専会経過報告

(41年7月～44年9月)

- | | |
|--|--|
| <p>41. 9. 24 幹事会
総会に関する件、会則変更の件</p> <p>41. 11. 12 総 会
会則第17条変更の件議決される。
お話とスライド……高村先生
講演『電子計算機について』
……山本欣子氏</p> <p>42. 1. 21 幹事会
数専会をブロック別に分ける案
追加会費納入の具体案</p> <p>42. 3. 4 幹事会
追加会費に関する印刷物発送</p> <p>43. 3. 30 幹事会
総会に関する件
次期会長候補者として中屋氏を推薦す</p> <p>43. 5. 3 総会(園遊会当日)</p> <p>43. 10. 19 幹事会
出席者少数のため役員の変更行われず</p> | <p>44. 1. 18 幹事会
役員の変更
中谷先生感謝会に関する件</p> <p>44. 2. 8 幹事会
中谷先生感謝会の具体案</p> <p>44. 3. 15 幹事会
中谷先生感謝会案内状の発送</p> <p>44. 4. 19
総 会
中谷先生感謝会</p> <p>44. 7. 12 幹事会(山本敦子氏宅)
平野先生叙勲祝賀会に関する件
会報発行の件</p> <p>44. 9. 6
平野先生叙勲祝賀会(こけし屋)</p> |
|--|--|

幹事会等の会合はいつも女子大構内で開かれていたが、7月以降は学園紛争のため、学外で行わざるを得なくなった。
(掘すみ)

会 計 報 告 (里村秀子)

昭和40年度

収入の部	
前年度より繰越	135,965
終身会費(31名分)	15,500
厚生部より	5,000
雑収入	1,020
計	157,485

支出の部	
通信費	10,050
雑費	14,500
次年度への繰越	132,935
計	157,485

昭和41年度

収入の部	
前年度より繰越	132,935
終身会費(30名)	30,000
終身会費・通信費	3,300
追加会費	10,000
ダンスパーティーより	28,000
厚生部より	5,573
雑収入	1,096
計	210,904

支出の部	
会報	134,890
通信費	31,870
雑費	600
次年度への繰越	43,544
計	210,904

昭和42年度

収入の部	
前年度より繰越	43,544
終身会費(35名)	35,000
追加会費(旧通信費含む)	221,000
計	299,544

支出の部	
通信事務費	4,669
次年度への繰越	294,875
計	299,544

昭和43年度

収入の部	
前年度より繰越	294,875
追加会費	16,300
計	311,175

支出の部	
通信事務費	15,660
ブローチ立替会	113,000
次年度への繰越	182,515
計	311,175

数専会図書費(昭和40年~43年)

収入の部	
前年度より繰越	195,961
ダンスパーティーより	
40年	20,000
42年	21,400
43年	30,000
ブローチ純益	
41年	17,000
42年	17,080
利子収入(郵便貯金)	
41年	30,492
"(振替貯金)	
43年	2,896
計	334,829

支出の部	
図書費	
40年度	17,440
"41年度	210,290
"43年度	51,305
次年度への繰越	55,794
計	334,829

▶ 編集後記 ◀

第9号の「会報」の原稿の送り先になるようお頼まれして、気易くお引受けしてしましまして、不慣れながらあれこれとかけずりまわっております中に、私の力ではとても及ばない事が分りまして、多くの方々の御協力を得てまとめる事が出来ました。ここに深く感謝申し上げます。

半年の間に中谷先生の感謝会、平野先生御授章祝賀会と数専会にとりましては歴史的な出来事が二つも起りまして、時代が大きく変わってゆくのを感じます。両先生には本当に御苦勞様でございました。これからの数専会が私共の手に委ねられてゆく重荷を感じます。殊に最近の学園の様子等見聞きするに及んで、私共卒業生は何をなしてよいのか戸惑うばかりでございます。もっと心を開き語り合う機会を持ちたいと痛感している次第です。この会報がそんなよすがとなってくれる事を心から願いつつ皆様にお届けいたします。

尚表紙「会報」は小林先生が書いて下さいました。厚く御礼申し上げます。

(青木)

『会報』第9号	
発行	昭和44年12月
発行者	東京女子大学同窓会 数専会
	東京都杉並区善福寺2-6-1 電話 395-1211(代)
発行所	東京女子大学内
印刷所	氷見印刷所
	東京都杉並区松庵3-1-14 電話 334-7936番